

お面とりんご

小川未明

青空文庫

町まちの方ほうから、いつもいい音おとが聞きこえてきます。

チンチン、ゴーゴーという電でん車しやの音おとのようなのや、プープーというらっぱの音ねのようなのや、ピーイ、ポポーという笛ふえの音ねのようなのや、聞きいても聞きいてもその音おとがいろいろであつて、どんなにぎやかなおもしろいことがあるのか、考かんえてもわからないよ
うな氣きがしました。

小ちいさな政まさちゃんしろは、白しろいエプロンおうらいをうえかけて、往おう来らいのた上うへに立たつてその音ねを聞きいていましたほうが、ついでその音ねのする方ほうへさそわれて、とぼとぼと歩あるいていききました。

そこは、ちやうど町まちのまがり角かどになつていました。車くるまがとおり

ます。^{ひとある}人が歩いていきます。それは、ほんとうににぎやかなのでした。

「おまえひとりで町^{まち}へいってはいけませんよ、道^{みち}をまようたいへんですから。」と、よくお母^{かあ}さんのおつしやったことばを政^{まさ}ちやんは思^{おも}いだしたのでした。

「なんで、道^{みち}などまようものか。」と、政^{まさ}ちやんは心^{こころ}の中^{なか}で強^{つよ}くいいました。

ちようどこのとき、あちらに子^こ供^{ども}たちがたくさんあつまって、なにかを^み見ていました。きつとおもしろいものが、あつたにちがいありません。

「なんだろうな？」

小さい^{ちい}政ちゃん^{まさ}は、そこまでいってみることにしました。

一人^{ひとり}のおじいさんが、紙^{かみ}でつくったお面^{めん}を売^うっていました。そ

れをかぶると、しわだらけのおじいさんの顔^{かお}が、おかしいひよつ

とこの顔^{かお}にかわりました。あんまりおもしろいので、政ちゃん^{まさ}は

わらいました。政ちゃん^{まさ}ばかりではありません。見^みていた子供^{こども}た

ちはみんなわらったのです。それだけでなく、おじいさんのひよ

つとこがぷつと息^{いき}を吹^ふくと、口^{くち}から赤^{あか}い長^{なが}い舌^{した}がぺろりと出^でて、

その舌^{した}が自由^{じゆう}にのびたりちぢんだりしたのでした。もうみんなは、

声^{こえ}を出^だしてわらってしまいました。

「さあ、このお面^{めん}がたった三銭^{せん}ですよ。」と、おじいさんは顔^{かお}か

らお面^{めん}を取^とると、いいました。

見ていた子供たちは、それがほしかったのでした。けれど、お
銭あしを持つていないものは買うかことができません。幸い、政ちゃん
はお母さんかあからもらった三銭せんがエプロンのかくしの中なかにありまし
たから、それを出して買うかことができました。政ちゃんはよろこ
んで、お家うちへかえっていきました。

政ちゃんはお面めんを持つて、おとなりの清ちゃんきよちゃんのところへ遊び
にいきました。そして、ひよつとこのお面めんをかぶつてぷつと赤い
舌したを出してみせると、清ちゃんきよちゃんもおばさんもびっくりしましたが、
きゆうにおもしろがつてわらいだしました。

「ねえ、お母さんかあ、僕ぼくにもひよつとこのお面めんを買かつておくれよ。」
と、清ちゃんきよちゃんが泣きだしました。

「なんでも人の持つて^{ひと}いるものを、ほしがるものではありません
。」と、お母さん^{かあ}はおつしやいました。

けれど、政ちゃん^{まさ}よりもつと小さな清ちゃん^{ちい きよ}には、ききわけが
なかったのです。

「僕も^{ぼく}、あんなお面^{めん}がほしいんだよ。」と、いいました。

「政ちゃん^{まさ}、いためませんから、すこし清ちゃん^{きよ}にかしてやつて
くださいね。」と、おばさんは政ちゃん^{まさ}にたのみました。

政ちゃん^{まさ}は困^{こま}ったけれど、清ちゃん^{きよ}にかしてやりました。清ち
ゃんはすぐにお面^{めん}をかぶつてみました。そして、ぷつと吹^ふくと、
ひよつとこは赤^{あか}い舌^{した}をぺろりと出^だしました。政ちゃん^{まさ}は、自分^{じぶん}
するときは見^みえなくてわからなかったけれど、清ちゃん^{きよ}がすると、

おもしろくてしようがなかったのです。

「もういい？　こんど僕ぼくがしてみせるよ。」と、政ちゃんまさはいいました。

しかし、清ちゃんきよは、かりたお面めんを放はなそうとはしなかったのです。

これを見た清ちゃんきよのお母さんかあは、

「さあ、政ちゃんまさにお返しかえなさい。そのかわり、清ちゃんきよにも買かってあげますからね。」と、おっしゃいました。

「買かってくれるの？」と、清ちゃんきよはよろこびました。

「政ちゃんまさ、そのお面めんはどこに売うっていましたの？」と、おばさんはおききになりました。

「あっち！」と、政ちゃんまさは町まちの方ほうをゆびさしました。

あの人ひとや車くるまのとおつて、にぎやかな景色けしきが目めにうかんできたのです。

「そう、おばさんをつれていっておくれね。」と、おばさんはたのみました。

かぜぎみなので清ちゃんきよは、すこしのあいだお家うちにおるすいをするきことにして、おばさんは政ちゃんまさと町まちへいきました。

「どこで、政ちゃんまさは買ったかの？」と、おばさんは政ちゃんまさのあとからついてきて、いいました。

政ちゃんまさは方々ほうほうを見みまわしました。けれど、どこにもおじいさんはいませんでした。

「あすこにいたんだよ。どこへいったんだろうな？」と、政ちやんは頭の毛あたまけを風かぜに吹かせながら、ふしぎそうな顔つきかおをしていたのです。

「ああ、もうどこかへ行ってしまったんでしょう。」と、おぼさんおぼさんもさびしい顔つきかおをして、おっしやいました。

その立たっていたそばに、果物店くだものみせがありました。そして、りんごがたくさんならべられていました。おぼさんはその店みせに立たちよって、りんごをお買かいになったのです。山やまのようにつまれているいちばん上うへにのついていた大きな赤あかいりんごは、それはみごとでありました。政ちやんまさは、

「あのりんごをほしいな。」と、心こころの中なかでいいました。

すると、おばさんは、

「あの大きいのも入れてください。」と、そのりんごをゆびさし
ておつしやいました。

赤い大きなりんごは、ほかのりんごといっしよにふくろの中へ
はいりました。

お家には、清ちゃんがお母さんのかえるのを待つていました。

「清ちゃん、もうおじいさんがいないのですよ。こんどきたら、
お面を買つてあげますからがまんなさい。その代わり、清ちゃん
のすきなりんごをたくさん買つてきてあげましたよ。」といつて、
お母さんはりんごをお出しになりました。

清ちゃんはお面がなくてつまらなかつたけれど、目の前になら

べられた目のさめるような美しいりんごを見ているうちに、わらいがしぜんと顔にあらわれてきました。そして、じつと見ているうちに、その中のいちばん大きな赤いのをとりあげました。それは、さつき、店にあるときから政ちゃんの目にとまっていた大きなりんごでありました。

これをごらんになったおばさんは、

「そのいいのは、政ちゃんにあげるのですよ。」と、おつしやいました。

清ちゃんは、うらめしそうな顔つきをしましたが、

「清ちゃんは、こんなにたくさんあるのですから。」とお母さんにいわれると、よくわかって、持っていたりんごを政ちゃんの手

にわたしたのでした。

政ちゃんまさはうれしいやらわるいやら、どうしていいかわからなかったが、清ちゃんきよがりんごをくれたので、自分じぶんもよくばってはいらないと思おもいました。そして、やはり清ちゃんきよのほしいものをやらねばならぬと悟さとりました。で、だいじにして持もっていたお面めんを清ちゃんきよにやりました。

「これは、政ちゃんまさのだいじなんでしょう。」と、おばさんはおつしやいました。

「清ちゃんきよは病びよう気きなんだから、僕ぼくこれをあげるよ。」と、政ちゃんまさはいいました。

「まあ!」といったおばさんの目めには、なみだが光ひかりました。清きよ

ちやんの目^めにも、なみだが光^{ひか}りました。
町^{まち}の方^{ほう}からは、あいかわらずいい音^{おと}が聞^きこえていました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷

1983（昭和58）年1月19日第6刷

※表題は底本では、「お面《めん》とりんご」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2015年5月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

お面とりんご

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>